

第6講 ペルシアによる小アジア経営の評価

ーペルシア時代における貨幣の発行状況ー

クレイのデータによる分析

ペルシアによる征服時（前 545 年）～ダレイオス逝去時（前 486 年）

1000 例以上の掲載

出土している貨幣の総量でもなければ貨幣の総体でもない

ポリスごと（地域ごと）の貨幣の種類が少ない

任意による例示

貨幣出土の偶然性と地域的偏り

統計学的有意性はない

定量分析ではなく定性分析

発行地の広がりや種類の増減に注目

ペルシアの経済政策がエーゲ海周辺における貨幣経済に打撃を与えていたのか？

発行地の拡大・縮小；発行貨幣の種類を増減＝貴金属流通量の増減＝貴金属供給量の増減という等式を想定

60 年間で約 140 種類の貨幣がリストアップ

貨幣の種類

キュロス 2 世時代（前 559 年～前 529 年）：13 種類

カンビュセス時代（～前 522 年）：26 種類

ダレイオス時代（～前 486 年）：100 種類

貨幣の発行地

キュロス 2 世時代：トラキア～エウボイア・アッティカ～コリントス

カンビュセス時代：トラキアでの発行地の急増とナクソス・デロス・サモス～カリアへの拡大

ダレイオス時代：ボイオティアの出現とトラキアにおける発行される

貨幣の種類急

増（4 から 26）

前 500 年頃のピーク＝イオニア反乱と関連か？

シグロス銀貨の出土

貨幣用地金の供給

ペルシア時代に入っても貨幣用地金のエーゲ海域への供給は強く制約されることはなかったようである。

貨幣用地金の流通量

徴税による貨幣用地金の退蔵は地金不足を招来しておらず、貨幣経済に支障を来たしたとは想定できず。

商業取引とペルシア人の倫理観

ペルシア人（正直を徳目とする）がアゴラでの商取引（誓約を立ててだまし合う）に倫理的嫌悪感を抱いていたと伝えられている（ヘロドトス）

ペルシアの経済体制を導入せず

ギリシア製品を排除せず

ペルシア王による褒賞システム

サルディスとダスキュレイオンにおけるアッティカ産土器

サルディス：少なくとも 60 点の黒絵式土器

ダスキュレイオン：300 点の赤絵式土器

政治的対立はギリシア製品に対する市場の門戸を閉じさせず

図 1 ギリシア世界における貨幣発行（種類）の推移

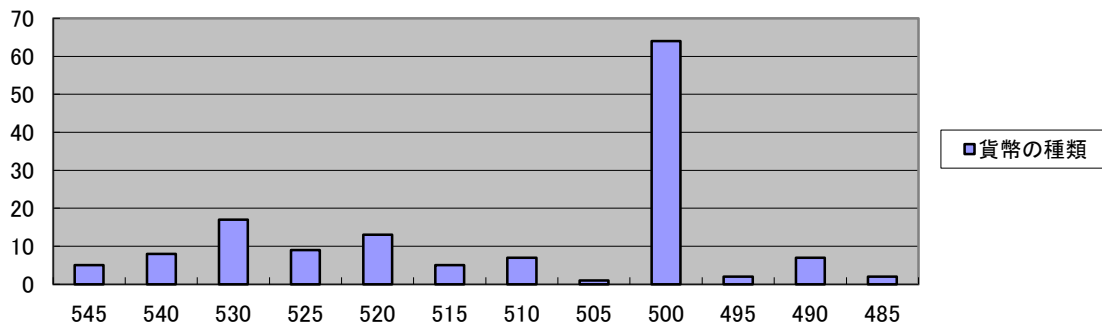


図2 地域別の貨幣発行（種類）の推移

	545>5	530>5	520>5	510>5	500>4	Total
	30	20	10	00	85	
Athens	5	4	4	2	3	18
Corinth	2		2	1	1	6
Islands	4	4	3	(1)	5	16+(1)
Boeot./Tessal./M ag.				3+(1)	4	7+(1)
Thracia/Acte/Ma c.	1	10	4		26	41
Ionia/Hell.P.	1	3	2		17	23
Caria		5	2	1	7	15
Lycia					1	1
Persia					2	2

Ionian Islands			1		3	4
Others					5	5
Total	13	26	18	8	74	139

Cranion belongs 'Others' group.

図3 ペルシア領における貨幣地数の推移

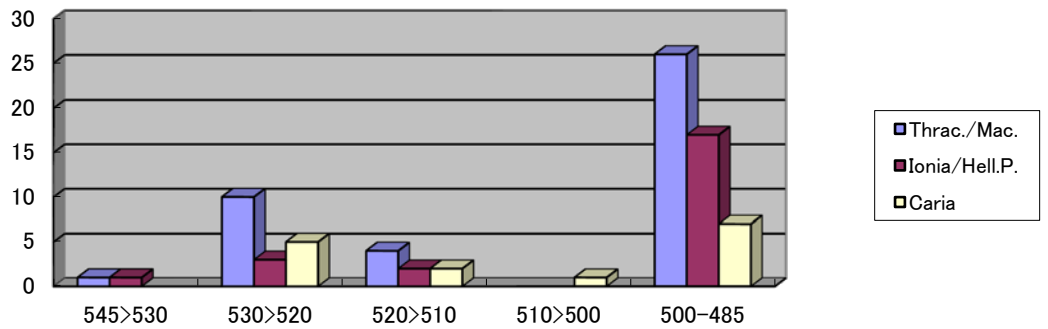


図4 エーゲ海域における貨幣発行地数の変化

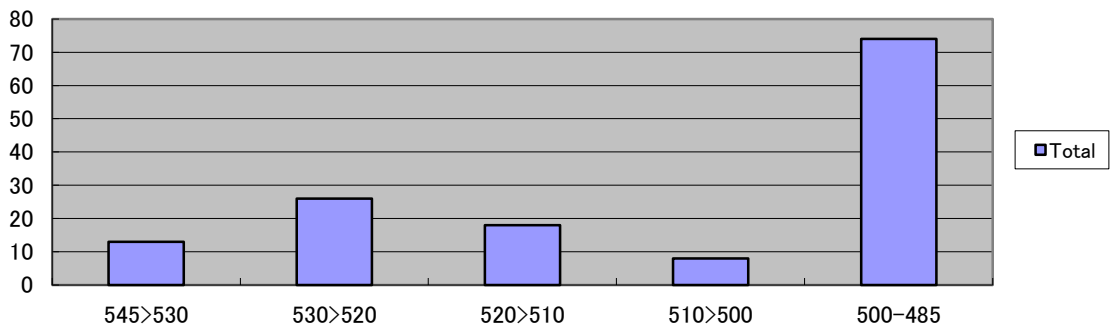


図 5 ペルシア王在位表

キューロス二世 (559～529 年) カンビュセス (529～522 年)

ダレイオス一世 (522～486 年) クセルクセス一世 (486～465 年)

参考文献

J. Balcer, *The Persian Conquest of the Greeks 545-450 B.C.*, Konstanz, 1995.

P. B. Georges, "Persian Ionia under Darius: The Revolt reconsidered," *Hist.* 49 (2000), 1-39.

C. M. Kraay, *Archaic and classical Greek Coins*, New York, 1976.

T. Lenschau, "Zur Geschichte Ioniens," *Klio*, 13(1913), 175-183.

O. Murray, "The Ionian Revolt," *CAH²* IV, Cambridge/ New York, 1988, 461-490.

